# 令和６年度　都立八王子東高等学校経営報告

東京都立八王子東高等学校長
佐藤　聖一

## １　今年度の取組と自己評価

### （１）教育活動への取組と自己評価

#### ①　学習指導

改訂学習指導要領の完成年度にあたり、国語科や地理歴史科、英語科における新科目の指導内容の確立並びに実施状況の検証、並びに各教科における観点別学習状況評価の定着に向けた取組を行った。

生徒全員が、タブレットＰＣを活用し、Teamsによる課題配信やレポート等の提出に取り組んだ。また、教員がＩＣＴを活用し「考える時間」を確保した授業実践をはじめ、ペアワークやグループワークを適宜取り入れる等、多くの教科で主体的で深い学びを引き出す協働型の授業を行った。

大学入学共通テストで８割以上の得点を目指す授業の実施に加え、「深い学び」を促す授業の実現に向けて、各教員が授業構成の工夫を継続した。

授業の在り方を見直す取組として、初年度研修、２年次研修、中堅教員資質向上研修、進学指導研究に取り組む教員が実施する研究授業に他の教員も参加し、生徒の反応や授業展開を研究する機会を得た。また、本校在籍の指導教諭の授業を他校の教員が研究する機会もあった。次年度も、こうした授業力向上に関わる取組が継続するよう取り組んでいく。

校務が重なる中ではあったが、進路指導部・教科主任会を中心に５教科の連携のもと作成した模擬試験の問題分析や解答・誤答分析結果を職員会議にて共有し、次の教科指導に接続した。今後とも、各教科、学年において取り組むべき弱点や強みを把握した授業の展開を心がけていく。

また、生徒の自学・自習環境を整理し、自習室の確保並びに放課後の学習時間を平日19時までとし、生徒の活用を促した。今後、部活動や委員会活動終了後等における自習室活用などを促していく。

本格実施６年目となった探究学習は、八王子市内中学校６校、他の都立高校９校を招聘した成果発表会を実施し、相互に発表し合うことで他校における研究の進め方や発表スタイルなどを学ぶ機会を持つことができた。今後とも、取組内容を精査するとともに改善を施していく。

さらに、大学や企業、自治体等との連携をさらに強化し一層の充実を図っていく。

台湾高雄中学校との交流は７月に本校で実施、12月に渡航、カナダトロントへの渡航を３月に実施し、事前研修を含め充実したプログラムを実施した。

#### ②　進路指導

学校全体の進路指導の方向性を揃え、国公立大学合格のための指導の一環として大学入学共通テストのフル型受験の指導を行った結果、難関国立大等への現役合格者数は12名となり、進学指導重点校としての目標数値（現役15名以上）を達成することができなかった。また、国公立大学の現役合格者数は122名であった。

共通テスト後、学校での自学や個別指導で学力を伸ばした生徒が多く、後期試験受験を視野に入れ最後まで粘り強く取り組む姿が見られた。

進路部と学年、教科が一体となった指導体制を確立するとともに、高い志を持ちそれを維持できるよう取組を進めていく。また、学習レベルに応じたきめ細かい指導を一層進め、目標達成のために粘り強く努力する指導を行い生徒の進路実現を目指していく。

#### ③　募集･広報活動

ここ数年の応募倍率を踏まえ、参加する説明会の見直しや、ホームページや旧Twitter等によるタイムリーな情報発信、学校案内の早期完成、学校説明会の内容の充実を図った。旧Twitterの掲示は、フォロワーも急増し、外部からの評判も良く、学校の教育活動に関する発信の継続が必要である。

また、生徒による中学校訪問や学校説明会における生徒目線からの説明を行うなど、直接の広報活動の

充実を図り、本校の良さを多くの中学生や保護者や都民の理解を得る活動を行った。こうした取組もあって、推薦に基づく選抜では2.03倍、学力に基づく選抜の最終応募倍率は1.52倍と回復傾向を見せた。

### ④　生活指導

基本的生活習慣や挨拶、制服の着こなし、ルール・マナーの徹底を呼びかける取組を規律委員会や教員による校門指導を行うなどして推進し、生徒の意識向上を図った。

生徒の中には、近隣小学生や中学生に対する学習支援や読み聞かせの実施、放課後子供食堂への参加など思いやりをもった行動ができ、それに対する感謝が寄せられた。

一方で、地域からは生徒の登校時のマナー、保護者の校門近くでの車での送迎による駐車に関する苦言が寄せられた。モラル向上や正門付近の交通安全確保に向けた取組が必要であり、これを継続していく。

いじめ・体罰を許さない環境の構築について、初期対応、生徒、保護者からの声を確実に把握する体制を構築し、適切な指導の実施に向けた教職員、生徒の意識啓発を図っていく。

自転車乗車時のマナー向上並びにヘルメット着用率の向上を目指す取組を継続する。

### ⑤　特別活動・部活動・海外交流事業

合唱祭、文化祭、体育祭など、学校行事については新型コロナウイルス感染症流行前の規格にて、当初の予定通りに実施した。６月実施の合唱祭では全学年生徒が揃って参加した。９月に実施のしらかし祭は外部の方4091人を動員した。昨年の来場者数を下回ったが一般の方の来場者数は250人多かった。体育祭も熱中症対策としてPTAが主体的にテント40基を借用するなどの協力もあり、短い準備期間の中で集中した取組を行った。いずれの行事も、実行委員の生徒が中心となって積極的に関われるよう、教員によるきめ細かな指導があった。

部活動についても、夏季合宿をはじめ、夏季休業中の活動の充実が見られた。

高大連携プログラムでは京都大学や東京都立大学との連携事業に参加した生徒は積極的に取り組んだことが大学側からも評価された。

教育庁の支援を受け、「数学オリンピック」や「科学の甲子園」事業に自然科学に関心を持つ多数の生徒が果敢にチャレンジした。

八王子東特別支援学校との交流活動も行事として定着し、担当生徒が企画・運営面でも主体的に創意工夫を発揮することができた。

本校の特色の一つである海外との交流事業については、12月末に台湾高雄市等訪問、３月末に３回目となるカナダトロントでの海外研修、７月には台湾高雄高級中学校生徒を本校に招いての交流、11月にオーストラリア高校生徒との本校における交流、カンボジア大学生の受け入れの機会を実施するなど、多彩な取組の中、生徒は積極的にかかわることができた。台湾やカナダでの研修については、校内での事前研修と現地での研修を組み合わせた本校独自のプログラムであり成果を上げた。

今後も、特別活動・部活動、海外との交流事業等を積極的に実施し、生徒の自主性や企画力、実行力、折衝力等の育成に努めるとともに学校の特色化に活用していく。

### ⑥　心身の健康づくり

養護教諭、担任、学年、管理職と十分な情報共有を図り対応にあたった。全教員対象の校内研修会では、AEDの操作方法や食物アレルギー緊急時対応手順を学ぶなど、緊急事態に対応できる技能を身に付けた。

修学旅行や長期休業後などにおいて、コンデションレポートを積極的に活用し、生徒の心身の状況、体調について自ら把握させるなど、自己管理を促した。

不安を抱える生徒については、二人体制の養護教諭が相互に連携し、学年とともに対応にあたった。

また、スクールカウンセラー、学校医との接続を綿密に行い、より専門的な処方についての助言を得た。

今後も、定期的なケアの実施とともに、ユースソーシャルワーカー等関係機関とも連携し生徒の心身の状況に配慮したケアを実施していく。

### ⑦　学校経営・組織体制

企画調整会議では、学校経営計画を具現化する取組を定めるため、各分掌部会や教科会での議論を集約し結論を出す形で行った。特に進学指導重点校としてのミッションの達成に向けた取組についての議論が行われた。

教職員の服務については厳正に行われており、この状況を継続する。
公開講座の実施に関しては、実施時期やニーズを踏まえ見送った。
経営企画室は、経営参画ガイドラインに従い適正に業務を行うとともに、今後も一層の経営参画機能を高めていく。

⑧　健康で明るい職場づくり

本校教員は、日々の授業準備、個別の教科指導、きめ細かな面談指導、部活動指導など、求められる業務は多様であり、一つ一つの量も多い。その中で、職場として、各部への業務の見直しに向けた声掛け、子育てに積極的に関われる体制についての対応にあたった。
今後も、ライフ・ワーク・バランスを意識し、教職員の健康管理や働きやすい職場環境の構築を引き続き改善を図っていく。

## （２）　重点目標への取組と自己評価

〈数値〉

① **難関国公立大学（東大・京大・一橋大・東工大・国公立医学部）現役合格者数15名以上**
（R2実績15名、R3実績９名、R4実績16名、R5実績16名、R6実績12名）

② **国公立大学合格者数現役100名以上**
（R2実績112名、R3実績103名、R4実績112名、R5実績119名、R6実績122名）

③ **大学入学共通テスト受験者のうち５教科７科目型受験者数　在籍6割(192名/320名)以上**
（R2実績211名、R3実績199名、R4実績213名、R5実績214名、R6実績220名）

④ **大学入学共通テスト（５，６-8・５-7型）全国平均上回り率1.25以上の得点者75名以上**
（R2実績66名、R3実績52名、R4実績52名、R5実績69名、R6実績73名）

⑤ **入学者選抜の最終応募倍率（推薦：3.0倍/一般：1.5倍）**
（R2実績3.26倍/1.52倍、R3実績2.66倍/1.61倍、R4実績1.60倍/1.22倍、
R5実績2.27倍/1.31倍、R6実績2.03倍/1.52倍）

〈詳細〉

①　難関国公立大学の合格者は合計12名（東大１・京都大１・一橋大３・東京科学大３・医学部医学科４）となり目標数値には届かなかった。また、国公立大学合格者は122名(昨年119名)となった。
最上位を意欲的に目指す生徒を計画的に育成すること及び、上位に続く学力層の生徒をさらに伸ばし、学校全体としての高い進路実現を目指しそれを可能とする体制つくりが課題となっている。現役で国公立大学の合格を目指すという大きな目標は全校生徒に共有され、一定の成果を出し続けているが、果敢にチャレンジする生徒層を厚く育成していく工夫が必要である。

②　組織的な進路指導の徹底することで、結果として国公立大学現役合格者数は一定数を輩出している。しかし、成績上位層を増やすことに加え、生徒の現役・首都圏、安全志向が高いことから、第１グループ受験者数を増やす取組が必要である。
大学入試改革による総合型、学校推薦型選抜を導入する大学がある中、本校特色の探究学習の成果を活かせるよう指導体制の確立について検討していく。

③　大学入学共通テストを国公立型(フル型)で受験するという本校の基本方針は、生徒・保護者にも浸透しており、全ての教科・科目をきちんと学習するという基本姿勢はできている。今後も指導方針として、安易に受験科目を絞り込むのではなく、最後までトータルな学力を伸ばすことを堅持していく。

③　今年度の大学入学共通テスト平均点上回り率1.25以上を達成した生徒は、文系で29名、理系で44名であり、昨年よりも増加した。

⑥　今年度の募集対策では、昨年度と同様に探究活動の取組などを積極的にアピールした。広報活動の地域を精査するとともに、ホームページや学校案内のリニューアル、小学生・保護者対象説明会も継続実施する等の取組を行った。
年間を通してホームページやTwitter等によるタイムリーな情報発信に心がけ、特色である充実した探究活動やグローバル教育に関する発信を継続する。

## ２　次年度以降の課題と対応策

【課題】

①　改訂学習指導要領の実施で得られた成果や課題を教科毎に把握・分析
②　生徒の関心分野を引き出し、高みを目指すチャレンジ精神の育成と指導体制の充実
③　探究学習や学校外での活動を進路活動に結び付ける体制の確立
④　生徒の主体性を促す活動の充実
⑤　海外交流の活性化など、グローバル人材の育成に向けた教育の充実
⑥　戦略的な広報活動の展開、ホームページや学校案内の更なる充実
⑦　教員の健康面を踏まえた執務の実現

**【対応策】**

①　定期考査での出題状況に対する生徒の解答状況、模擬試験結果の分析等を通して本校のカリキュラムの評価、検討を行う。
②　最先端の研究や技術等に触れること等を通して、「志」を確立するとともに、早い段階から最難関大学（第Ｉグループ）を意識する機会を作り、気付きを促す。そのために必要な進路指導部、学年、教科が一体となった指導体制を確立する。
③　生徒が得た探究学習の成果を外部コンテスト等への参加を促すとともに、大学入試への活用方法を助言する体制を確立する。
④　学習・生活指導や特別活動等を含めて、生徒に自主的・能動的な行動を促すとともに、実施に向けた計画を立てることを意識・実行させ、日々の振り返りから自己への自信を培い自己肯定感を育成する。
⑤　『Global Education Network 20』の取組を一層進め、台湾高雄高級中学校との姉妹校交流、カナダトロントをフィールドとする自校の海外研修、都教育庁が所管する多文化共生海外派遣研修、次世代リーダー育成道場への取組を推進する。
⑥　教職員に加え、在校生徒有志による広報活動や、卒業生保護者や同窓会、後援会による協力など、学校内外の人的資源を活用して募集広報活動の活性化を図る。
⑦　教育活動に関わる実施事業の一つ一つを精査し、必要な改善・スクラップを実施する。